



山田秋夫（技術士：建設）

S35 年土木卒

武蔵工業大学 柏門技術士会会長

会長就任のご挨拶

私は平成 17 年 10 月 8 日
に開催された柏門技術士会

第 2 回総会において、第 2 代目の会長を仰せつかりました。まずは本会の創設に大変なご尽力をいただき、かつまた初代会長として、八面六臂の大活躍で本会活動の先導役を立派に努め、草創期の本会の発展に多くの功績を残された五艘 章 氏（41 土木、柏門技術士会名誉会長）の先見性、実行力に敬意を表すると同時に、深く感謝申し上げます。

もとより浅学非才な私にとって柏門技術士会の会長職は、過ぎたる大役ではありますがお受けしたからには、本会発展のため、ひいては武蔵工業大学のため、微力ながら頑張ってまいりたいと思いますので、会員各位におかれましてもこれまで以上の協力ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

本会創設から今日までの経過

本会は平成 15 年 9 月、会員相互の交流、研鑽、後輩達への教育や、これらを通しての社会貢献を目指して創設されました。創設から約 3 年が経過しましたが、会員名簿の作成、年 1 回の会報誌の発行、ホームページの開設、会員の C P D（技術士の資質の維持・向上のための継続研鑽）活動としての講演会・最新技術現場見学会などを積極的に進めてまいりました。なかでも特筆すべきは平成 18 年 5 月 15 日（月）に、武蔵工業大学・早稲田大学・中央大学技術士会合同講演会・交流会を社団法人日本技術士会の会議室を借用して開催したことです。この催しは柏門技術士会副会長で、企画渉外委員長を務める佐伯勲氏が企業内技術士交流会の人脈を通して、関係者に働きかけた結果実現いたしました。このような大学の枠を超えた催しは講師の人選・参加者の招集等の点で利点が多く、今後もさらに他の大学も含めて、C P D 講演会・交流会の輪を拡大させていきたいと考えています。

これまでの 3 年間に、フジサンケイビジネスアイ紙（J R の駅などにて販売している日刊紙）に紹介されること 2 回、社団法人日本技術士会の月刊誌（平成 18 年 6 月号）・武蔵工業会会報誌（平成 18 年夏号）にそれぞれ、本会の紹介記事を掲載させていただくなど、本会の P R にも積極的に努めて参りました。

武蔵工業大学に望むこと

柏門技術士会発足から今日まで、堀川清司前学長をはじめ、中村英夫学長、教職員の皆様には、本会活動に格段のご指導、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。これまで両学長を含め10指に近い先生方に、大変お忙しい中にもかかわらず、貴重なご講演をいただきました。この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

さて、社団法人日本技術士会は技術士・技術士補の資格取得者増加策の一環として、日本技術者教育認定機構（J A B E E）の活動支援を強化しています。

一方、文部科学省告示第83号（平成17年6月6日付官報）によれば、全国52大学と10工業高等専門学校が、109の専門課程（13部門）で、J A B E Eの認定を得ています。ちなみに武蔵工業大学の都市基盤工学科はこの中に含まれており、平成16年3月以降の卒業生は、技術士の第一次試験が免除されます。

少子化の進行で、大学の受験者・入学者の獲得競争が年毎に激化しつつあることは周知の事実であります。このような状況の中で、J A B E E 認定課程の多寡や大学卒業技術士数の多寡は、受験生の大学選びの一要素になることを考慮すると、工学部のすべての学科で早期に、J A B E Eの認定を得ていただくことが肝要と考えています。また、環境情報学部においても、その可能性について十分検討していただくようお願いいたします。

柏門技術士会会員に期待すること

技術士は科学技術全般の専門家として、広い分野と職域で科学技術創造立国実現に向け、その中核となって活躍することが求められています。そのため、社団法人日本技術士会では技術士の資質の維持・向上のための活動推進事業として、C P D講座の企画・開催等及びC P D情報の提供、C P D記録の登録及び証明書の発行等の業務を実施しています。ちなみに3年間で150時間の継続研鑽を重ねていると認定された場合、「(社) 日本技術士会C P D認定会員」である事を証する制度を本年3月から開始しています。

このように、技術士資格も他の多くの国家資格と同じように、「とってある、持っている。」だけでは世間は一人前の技術士としては認めてくれない時代になっています。技術の進歩、諸システムの改善・改革、人々の価値基準の変遷等々に日々対応していく努力・研鑽活動が、我々技術士には求められています。

会員各位に置かれましては、何かとご多忙のことと思いますが、是非とも本会の諸活動に積極的に参加して頂き、各人の技術の研鑽に努めると同時に、本会発展のためのご意見・ご提案等をいただきたいと切に願っております。

我々の諸活動が院生・学生の誇り・自信につながる事も強く期待しております。

会員の皆様方にはこれまで以上に、ご協力、ご指導、ご支援をいただきますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

以上